

田口今日子さん(経済・2年)蔵の街プロジェクト

蔵の街プロジェクトのアンケート調査に参加したのは、今回で2度目でした。前回、行って少しは作業に慣れていましたが、なかなか知らない人に話しかけるのは難しかったです。

けれど実際に行ってみるととても親切な人が多く、長いアンケートにも快く答えて頂きました。普段、地域の方々と話す機会があまりなかったのですが、このプロジェクトを通して、たくさんの人と接することができました。

半田市の活性化のため、また、自分自身も成長できる良い機会と思うのでこれからも積極的に参加したいです。

左から柳川君、矢野君



柳川将也君(経済・2年)蔵の街プロジェクト

身近にありながら全然知らなかった半田市の観光や文化等をあらためて知るきっかけとなりました。そのことによって半田というまちに興味や関心をもつことができました。

また、調査の日は天気は良かったのですが、風が強く、とても肌寒いため凍えながらの調査となりました。また、アンケートもすんなり答えて頂ける方もいれば、そうでない方もおたいたいへん苦労しました。苦労しましたが、貴重な経験となりました。今回のアンケート調査は、社会勉強になったとともに、半田市の再発見につながる機会となりました。

丸田孝一君(経済・1年)蔵の街プロジェクト

今回、アンケート調査を行ってみて気づいたことは地域の歴史・文化について理解を深めたいという人がたくさんいたことです。

アンケートをしているといろいろな人に会い、様々な意見が出ました。もっと雛人形を見たいとか、甘酒がおいしかったとか、赤レンガの建物は興味深かったなどたくさん意見が出ました。

最初はアンケートをする時、ただ聞いていたのがだんだん意見を聞くうちに、この意見を反映させてもっとよいイベントにしたいという前向きに考えられるようになり、これが私たちの役割なんだと、この現代GPの意義みたいなものを見つけることができました。

佐竹宏太君(経済・2年)蔵の街プロジェクト

今回のアンケートを通して楽しかったことは、お年寄りの方とかにアンケートをすると自分にはない答えがいっぱい出てきてことです。アンケートのやりがいを感じました。

アンケートに協力してくれた方は、みんな親切で、特に苦労したことはなかったです。アンケートをする側になって親切に答えて頂き、半田市の活性化を望んでいるんだなということを感じました。これから半田市の活性化に向けて、自分自身も取り組んでいきたい。



中根さん

中根 綾さん(情報社会科・4年)地域生涯学習プロジェクト

地域活動への参加は、「大学の機能を生かした生涯学習計画」というプランに応募し選ばれたことがきっかけです。子供たち向けの生涯学習プランが選ばれ、半田市と一緒に企画から参加しました。計画だけで終わらずに、実際に企画に関わって見たいという思いが実現した2年間でした。

なかでも印象に残っていることが「私みたいなお姉さんになってみたい」と子供たちから言われたことです。また、子供たちと接していくなかで、子供たちが心を開いてくれて、子供たちから話してくれる時が本当にうれしいです。

2年間の実践活動を通して、さらに社会教育の理論および実践を深く学びたいという思いが強くなり、本学の大学院に進む決意を固めました。今、本当にやる気になっています。

左から田口さん、永井さん、林さん



永井智子さん(経済・2年)蔵の街プロジェクト

今回、このような地域活動に初めて参加しました。普段、地域の人達とお話することもあまりないのでたいへん貴重な体験となりました。

アンケート調査では、最初は戸惑いもあり、質問に苦労しましたが、やっているうちに次第にとっても楽しくなり、いろいろな世代の方に話を聞けるようになりました。

このような活動をもっとやりたいと思いました。このような経験は、大学に在るうちにしかできないことだと思うので、今できることをしっかりと行って、それをいい思い出にしたい。

矢野暁彦君(経済・2年)蔵の街プロジェクト

地域の人にアンケート調査という形で接してきて、地元の人が半田のまちをどう思っているのかを知ることができました。また、今回のアンケート調査会場の「はんだ蔵のまち雛祭り」イベントの雰囲気も楽しむことができました。

今、一人暮らしをしているのですが、長年住んでいる人の知多のイメージと2年間だけの僕では印象がだいぶ違うと感じました。これから、プロジェクトを通して、さらに知多というエリアを自分の目で見ていきたいと思っています。

左から丸田君、佐竹君、村田君



村田敏頭君(経済・1年)蔵の街プロジェクト

今回、アンケートという形で観光客の人とふれあっていく中で、日頃、大学の授業では学ぶことのできない体験ができました。知らない人に声をかけてアンケートに答えてもらうことは、自分自身もこれまであまりアンケートとかに答えていなかっただけに不安もありました。しかし、観光客の人たちは親切に真剣に答えてくれてうれしかったです。

いろいろな年齢の人と話をしていく中で、自分とは違う考え方や見方をしている人がいて、もっといろいろな視点からものを見なくてはいけないということを感じました。地域の人達に「ありがとう」とか「寒いのに大変だけど頑張ってる」と声をかけてもらい、人の役に立つことをすることはあらためて良いことと思いました。

林 愛子さん(経済・2年)蔵の街プロジェクト

私の参加している蔵の街プロジェクトの魅力は、酢や酒づくりが盛んな半田のまちをもっと活性化させ、住みよい観光のまちづくりについて実践を通して学べることです。

蔵の街プロジェクトのアンケート調査では、半田の蔵の街並みを実際に見て、とても良い雰囲気でした。アンケート調査を行った「はんだ蔵のまち雛祭り」会場は、多くの人で賑わっており、プロジェクトに関わっていくにあたって、力が入りました。今後のプロジェクトの進展にわくわくしています。

東 丈浩君(経済・1年)蔵の街プロジェクト

現代GPを通して、人前に出るということは大変なことだと感じました。やはり第一印象が重要であり、はきはきとしゃべることが大事だということを知りました。

苦労したことは、アンケートをお願いした時に「急いでいるから」と言って断られた時が一番困りました。また、会場の流れを考えて行動しないとアンケートをとれないということも発見しました。

人の流れをよみ、考えて、先に行動することができるようこれから頑張りたいです。



左から東君、櫻井君

櫻井俊樹君(経済・1年)蔵の街プロジェクト

アンケート調査を行って感じたことは、意外にもあたたかく答えてくれる人が多かったことです。最初は、拒否されることが多いと思っていましたが、そうではありませんでした。

楽しかったことは、半田の歴史に触れることができたことです。近くに住んでいながらまったく歴史について知らなかったのが勉強になりました。また、市外から来る人は、酒と酢、そして和菓子を求めにくる人が大半でした。

苦労したことは寒かったことくらいです。次回のアンケートでも貴重な意見がたくさんとれるように工夫したいです。



浜本君

浜本裕貴君(経済・4年)コミュニティビジネスプロジェクト

コミュニティショップ「畔」を立ち上げ、ほぼ半年を振り返ってみると、学校で学ぶ経済学と実際に体験することによって学ぶ経済学とは、机上では味わえない違った醍醐味があることを実感しました。商売という面を考えると、ただ物を買って利益を上げ、店を成り立たせる・維持するというのが大切に思えますが、一番大事なものは、如何に地域の方々と密着し、どのようにコミュニケーションをとるかという面が重要であることに気づきました。つまり、如何にリピーターを掴むかということです。「畔」では、近所の主婦の方やその子供達が遊びに来てくれる光景が見られ、スタッフにとって、とてもうれしいことでした。